

TJUP 第5期活動指標評価シート

期間：2022年10月1日～2023年9月30日

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	担当委員会等	活動指標	実績および評価・改善項目	到達率 (%)	全体会評価欄	監事評価欄
プラットフォームの形成・発展	<p>■プラットフォームの拡充、体制を整備・強化する。</p> <p>■プラットフォームの認知度を向上させる。</p>	会員校・地域の課題検討		2回審議	地域および地元企業が抱える課題に対し、TJUPとして何が出来るかをテーマに2022年度ランドデザイン検討会を3回（2022年12月23日、2023年2月28日、2023年3月29日）実施した（第36回、46回、49回運営協議会）。ほか、2022年度第1回共同IR分析によるアウトカム指標に関する調査の実施および達成状況分析により課題検討を実施した（第39回、43回運営協議会）。また、2023年度第1回共同IR分析課題について検討した（第47回運営協議会）。	100%	100%	全体会評価が 妥当 妥当でない( ) 【意見】 第5期では、地域等で抱える課題に対し、各種検討や調査分析を適切に行い、プラットフォームの拡充、強化を図っていることが伺える。 第4期からの継続課題である「TJUP法人化へ向けた検討」では、今後の方針とメンバー再編成を経て、「法人設置検討部会」を立ち上げ着実な一歩を踏み出している。法人化を見据えた具体的なアクションと進展に期待したい。
		事業内容の検討		2回審議	2022年度の事業計画に基づき、オンラインを活用した事業並びに感染予防対策を講じて対面による事業を実施した。第5期活動指標に基づき、事業内容の検討を実施し、2023年度事業計画を策定し、決定した（第42回、43回運営協議会、第8回全体会）。前年度に引き続き、可能な範囲での自治体会員、事業者等会員の委員会への参画により、共同事業の内容を検討した。他、委員会所属希望調査を行い、委員会校の再編成を行った。各委員会が新体制のもと円滑に事業を実施している。	100%	100%	TJUPにおいて自治体・企業等・学校が協力し数多くの事業が実施されているにもかかわらず、プラットフォームの知名度が効果的に上がらないことについては継続的な課題となっているが、TJUPが発足してから5年経過し、コロナ禍においても、その後も様々な事業を着実に実施していることは評価したい。知名度や認知度を上げていくには、今後も自治体・企業等と連携しさらなる事業展開が必要だと考える。引き続き、自治体・企業等・学校の多様な連携のもと、事業が展開されることを期待する。 従って、第4期活動の二次評価内容は、適切に第5期計画に組み込まれており、中期計画のPDCAサイクルはよく機能している。
		TJUP法人化へ向けた検討		4回審議	第42回運営協議会にて「法人化検討チームの再編と本格的な検討計画について」協議した。その後、第48回運営協議会にてTJUPの法人化検討状況と今後の方針およびメンバーの再編成について再度協議し、第49回運営協議会にてメンバーが決定した。併せて、2023年9月4日に第1回の法人化にかかる検討会議があり、グループの名称を「法人設置検討部会」とすることおよびリーダーが決定した。以降も隔月で部会を開催し、検討を進めることとなった。	75%	75%	
		中長期計画のPDCA		2回審議	2022年10月13日開催の幹事会において、活動評価シートによる第4期活動状況の自己点検を実施、2022年10月21日開催の第7回全体会において、中長期計画に基づく第4期活動指標評価の一次評価を行い、2022年11月25日開催の第39回運営協議会にて監事より第2次評価を受け、改善項目を整理し第5期活動指標につなげた。第5期の活動評価は10月の全体会の一次評価に向けて自己点検を行っている。また、中長期計画の更新（ロードマップ含む）及び第6期（前半）の活動指標を、第49回運営協議会において決定した。	100%	100%	
		自治体・企業等との連携体制整備・強化		自治体・企業等へのヒアリングに基づき1回審議	該当期間内にTJUPとして新規ヒアリングは実施できていないが、地域交流委員会にて、2022年10月1日、2023年9月30日に実施した公開講座『毎日楽しく介護予防～筋トレ・ロトレ・脳トレのススメ～』や2022年10月29日に実施した東松山市との共同企画「東松山市クリーン活動」は自治体へのヒアリング、意見交換をもとに企画・実施した（第35回、37回、47回運営協議会）。他、キャリア支援委員会では2021年度に実施した自治体会員・事業者等会員へのヒアリング結果として挙がっていたTJUPインターンシップを2023年度の新規事業として立ち上げ、実施した（第45回運営協議会）。	100%	100%	
		自治体・企業等と連携したプラットフォームの認知度の向上		自治体広報誌、マスメディア媒体に3回以上掲載	2023年度「武蔵国の19校を通じて埼玉を知る」の公開講座について、ゆあ東上および埼玉県生涯学習ステーションへの掲載を行ったほか、坂戸市、飯能市、東松山市の広報誌等にも掲載していただいた。 地域交流委員会では2023年6月3日に新座市協力のもとで実施した「親子野球イベント」の新座市市報への掲載を行った。TJUP共催「県西部大学連携リレー公開講座」の参加募集の際、狭山市・飯能市の広報誌に掲載を行った。 また、鶴ヶ島市共催の「鶴っ子サマースクール」の取り組みが2023年8月4日の朝日新聞にて取り上げられた。 さまざまな事業を実施しているにもかかわらず、プラットフォームの認知度や知名度が上がらないことについては、継続的な課題として挙げられる。	100%	100%	

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	担当委員会等	活動指標	実績および評価・改善項目	到達率 (%)	全体会評価欄	監事評価欄
基盤となる取組 (共同事業)	■プラットフォームの重要なステークホルダーである会員校の学生・教職員のための事業を共同で推進する。	自治体との協議体制確立		1回協議	各会員校学長及び協定自治体、協定事業者の出席により、2022年10月21日に第7回全体会、2023年5月26日に第8回全体会を開催した。第7回全体会における協議事項として、TJUPの活動状況を精査し評価を得た。	100%	100%	全体会評価が 【意見】 妥当・妥当でない( ) 各項目とも目標到達率が高く、その内容についても充実した事業が実施されたことが伺われる。 今後は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、対面での活動が増えることが予想されるが、オンラインでの活動、対面での活動、それぞれのメリットについても考慮し適切に活用して、参加者に対する効果的な事業展開を期待したい。 単位互換制度については、2022年度より単位互換ワーキンググループが設置され、現在までに102科目を設置するなど、多様な科目が準備された一方、利用した学生数が伸びていない。今後、単位互換制度を利用しやすいするための仕組み作りが望まれる。
		教育連携に関する市民フォーラムの開催	教育連携委員会	1回開催	次期中長期計画において、自治体、企業及び大学等による教育連携に関する懇談会に発展的変更を予定しており、実施に先駆け、自治体及び企業を交えた教育連携フォーラムを企画し、2023年11月7日開催に向けて準備している。	50%	50%	
		プラットフォーム大学入試説明会		1回開催	2023年6月3日に、オンラインでの合同入試説明会を実施した。参加者数が課題として挙げられるため、新たな開催方法の検討も必要である。	100%	100%	
		公開講座		10講座	感染症対策を講じた上で対面講座およびオンライン講座を23講座実施した。引き続き公開講座の実施を推進していく。	100%	100%	
		単位互換制度		前評価期間比120%の利用率	2022年度より単位互換担当者ワーキンググループが設置され、単位互換科目として2022年度後期は86科目、2023年度前期は102科目を開講した。単位互換の利用者数は2022年度後期0名、2023年度前期は1名であった。今後も受講を促すような工夫が必要である。	50%	50%	
		地域リスクマネジメント懇談会	地域交流委員会	1回開催	2023年8月21日に地域交流委員会共同FD・SDとして、「大学教職員が風水害時に必要な備えや行動とはーその時、自分に何ができるか？」をテーマに実施した。東松山市危機管理防災課と西武文理大学より、過去の災害による被災状況や防災の取り組みについて事例紹介を受けたのち、TJUP会員校の学生・教職員、自治体会員、事業者等会員で、シミュレーションゲーム「風水害24」を体験し、災害時にどのような備えや行動が必要であるかを学んだ。その後、それを踏まえて地域のリスクマネジメントに関する意見交換を行い、それぞれの立場においてとるべき行動やその順序を確認するなど防災意識の醸成を行った。	100%	100%	
		共同研究・知財活用		5プロジェクト以上	評価期間内の実績は、プラットフォームに参画する事業者等会員との共同実施プロジェクトが1件、プラットフォーム形成大学等間での共同実施プロジェクトが8件の合計9件となった。各研究について、自己点検を実施した上で、第49回運営協議会にて点検および改善点等について協議を行った。引き続き、プラットフォーム内での共同研究等を積極的に推進していく。	100%	100%	
		教育・研究施設共同利用		5件以上	TJUP会員校等間において、教育・研究を目的に共同利用している施設・設備は12件となった。引き続き、施設・設備の共同利用について推進していく。	100%	100%	
		学生の相互交流活動（イベント・交流会等）の実施	学生イベント交流委員会	2事業	2022年11月20日（日）にイオンタウンふじみ野において、「フィンランド モルック講習会&ワークショップ体験」を実施した。モルック協会による体験教室を通して、学生間交流を図ることができた。並行してワークショップ体験コーナーを開設し、TJUP広報に繋げた。2022年12月17日（土）に東邦音楽大学において、「地域イベントを企画・運営してみよう！！～フルート体験講座を通して～」を実施した。フルート実践講座の参加を通じて、イベント運営等について、活発な意見交換が繰り広げられ、学生間交流が図れた。さらに、イベントチラシ作成を実施した。（後日、優秀なチラシは、村松フルート製作所のイベントにて採用。）	100%	100%	
		人事交流制度		1件以上	TJUP会員校間の人事交流は1件となった。特定の自治体、あるいは大学・短期大学間での取り組みには限界があるため、プラットフォーム形成大学・短期大学ならびに自治体への積極的な取り組みを促す必要がある。	100%	100%	

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	担当委員会等	活動指標	実績および評価・改善項目	到達率 (%)	全体評価欄	監事評価欄
多様な高度教育の提供	自治体、企業等との連携を含めた教育プログラムを開発する。	教育改善・e-ラーニング促進 IPE・IPWプログラムの展開	教育連携委員会	FD・SD開催 2回以上 (e-ラーニング最終指標5科目)	2023年6月21日及び9月8日に教育改善に向けた教育連携委員会共同FD・SDを開催した。 e-ラーニングについては、授業のオンライン化が進んだことで、e-ラーニング科目数は最終指標5科目を超えた。 IPE・IPWプログラムについては、城西大学、日本工業大学、埼玉県立大学が一員となって実施しているSAIPEで今期も実施した。	100%	100%	全体評価が 妥当・妥当でない(%) 【意見】 コロナ禍による授業オンライン化によって、e-ラーニング科目の実施数が増加していることが伺われる。IPE・IPWプログラムにおいても3大学が一員となっている「SAIPE」において実施されている。今後も継続的な実施が望まれる。 一方、目標値に達していない項目については、自治体・企業等との意見交換等から、今後TJUPとしてどのような協力や連携が可能であるかを検討し、今後の事業内容に反映されることが望まれる。こうした中、検討されている「社会人に向けた教育プログラム」のシステム開発は大変興味深く、今後の展開に期待したい。
		履修証明型市民・町民大学の提供_履修証明プログラムの設置	教育連携委員会	1プログラム以上	委員会内に履修証明プログラム開設推進チームを設置し、2023年6月21日にTJUP会員校の履修証明プログラムの事例研究を行った。 今後の展開として、プラットフォームの取り組みにふさわしいプログラム開発に向け、当指標を社会人に向けた高度教育に発展的変更することを前提に、今年も引き続き「社会人対象教育プログラム2023(～空気圧・制御工学セミナー)」を企画・立案、実施した(2023年6月に全3回開講)。	50%	50%	
		履修証明型市民・町民大学の提供_自治体連携の詳細協議・検討	教育連携委員会	2回以上協議	履修証明プログラム開設推進チームでの検討の結果、プラットフォームとして提供する「履修証明プログラム」の調整が困難であることから、自治体との協議は実施せず、プラットフォームの取り組みにより馴染む「社会人に向けた教育プログラム」のシステム開発にシフトし、自治体との連携の準備を進めている。	0%	0%	
地域連携の推進	生活しやすい地域づくりを推進する。 地域産業の活性化を推進する。	地域イベントへの教職員・学生派遣		100名 最終指標200名	地域交流委員会では、2022年10月29日(土)に日本スリーデーマーチに向けた「東松山市クリーン活動」して、82名のTJUP学生教職員・自治体会員、事業者等会員とでウォーキングと併せて地域の美化活動を行った。 また2022年11月19日(土)、20日(日)においてイオンタウンふじみ野創業2周年イベント開催の際、TJUPとして、城西大学ローカルヒーローショー28名派遣(11月19日(土))。学生イベント交流委員会として、「フィンランド モルック講習会&ワークショップ体験」学生26名派遣(11月20日(日))。 ほかイベントの運営スタッフとして、学生イベント交流委員会「地域イベントを企画・運営してみよう!!～フルーツ体験講座を通して～(2022.12.17開催)」にて8名、「介護・福祉体験教室(2023.8.26開催)」にて14名、「フットサル体験(女性対象)(2023.9.16開催)」にて15名の派遣を行った。	100%	100%	全体評価が 妥当・妥当でない(%) 【意見】 達成目標である「生活しやすい地域づくりを推進する」「地域産業の活性化を推進する」はTJUPの活動の中でも大きな比重を占めている分野であると考え。その活動範囲の広さや実施内容の多様さは、地域連携を進めていく上で大きな要素であり、学校の教職員や学生にとってもTJUPとの関わりを十分に認識できる機会になっている。 また、参加する学生にとっては、事業に参加することでお互いが知り合いになり、幅広い交流の場となっている。今後とも学校・自治体・企業等が連携した事業を実施していくことを期待する。このような地域での活動がTJUPの知名度向上に繋がっていくものと考え。 地域企業のセミナーやインターンシップは、地域に根ざした活動をして行うとする学生にとっても、企業等にとっても、双方メリットがあると考え。今後も継続し充実させていきたい事業と言える。TJUPには多くの自治体・企業等が参画しているの、こうした事業を足がかりに、更に地域産業の活性化に繋がれるよう期待する。
		健康増進事業の実施	地域交流委員会 学生イベント交流委員会	1事業 最終指標2事業	地域交流委員会では、2022年10月1日(土)にTJUP会員自治体の管轄であるふじみ野市立介護予防センター、新座市老人福祉センター、新座市第二老人福祉センターと協働して、公開講座『毎日楽しく介護予防 Part.2 ～筋トレ・ロトレ・脳トレのススメ～』を対面とオンライン形式で実施した。 複数のTJUP会員校から、作業療法士・言語聴覚士の教員、管理栄養士の教員が講師となり、栄養指導や健康チェック、体操を組み合わせた介護予防講座を開催し、健康寿命延伸のために“食事のポイント”と“体づくり”を学ぶ場を提供した。 また、2023年9月30日に、協働施設を前年度より2自治体3施設→5自治体7施設に増やし、複数のTJUP会員校から、作業療法士の教員、管理栄養士の教員が講師となり、介護予防に関する公開講座をより広範囲の地域を対象に開催した。 学生イベント交流委員会では、2023年8月26日(土)に、日本医療科学大学において、「介護・福祉体験教室」を実施。リハビリテーションの観点より福祉機器の体験を通しての学生間の交流の他、地域の小学生への指導を実践。併せて、介護予防運動について実施。 2023年9月16日(土)に、武蔵丘短期大学において、「フットサル体験(女性対象)」を実施。フットサルの体験を通して、身体を動かす楽しさの他、運動を始める機会とし、健康増進に役立てられる講座を実施。	100%	100%	
		地域企業との連携による企業セミナーの実施	キャリア支援委員会	2事業	2023年6月23日に第6回業界セミナー「オンライン合同企業説明会」(実施責任校:駿河台大学)を実施。目標の2事業の実施には至らなかった。	50%	50%	
		地域企業との連携によるインターンシップの実施	キャリア支援委員会	1事業	2023年8月8日～9月15日に「TJUPインターンシップ2023」(実施責任校:埼玉女子短期大学)の実施をもって目標達成となった。	100%	100%	